



西垣社長インドネシア初訪問 ―工場移転状況―視察―

西垣社長が、社長就任後初めてインドネシアを訪問されました。今回の訪問は、クマテックス（以下、KMT）が現在進めている中部ジャワ州サラティガ市への工場移転プロジェクトの進捗状況を直接確認し、今後の方向性を現地関係者と共有されることを目的としたものです。



▲クマテックス移転チームと

サラティガ市は首都ジャカルタから東へ約600kmに位置し、ジャカルタから飛行機と車乗り継ぐ必要があります。

まずは移転先となるサラティガ工場を訪問いただき、建設・設備準備の状況、今後の操業計画、現地スタッフの体制などについて詳細な説明を受けられました。作業現場では、着実に準備を進めている現地チームの取り組みを確認し、今後の安全操業と品質確保の重要性について言葉をかけられました。

その後、旧オランダ洋館を活用した歴史あるサラティガ市役所を表敬訪問され、重厚な建築と落ち着いた雰囲気の中で、記念品を贈呈するとともに、工場移転プロジェクトへの理解と協力、今後の行政面での支援をお願いしていただきました。

現地行政との良好な関係構築は、海外での長期的な事業運営において欠かせない要素であり、今回の訪問はその基盤をさらに強化するものとなりました。



▲市役所での記念品贈呈

また、日本人駐在員の居住予定地であるスマラン市街も視察されました。スマランはインドネシアで5番目の規模となる都市で、サラティガ市から車で約1時間の距離に位置しています。近年は商業施設やインフラ整備が進み、AEON（イオン）の出店により日本食材も容易に入手できるようになるなど、生活環境は着実に整いつつあります。駐在員とその家族が安心して生活できる環境であるかを確認することも、今回の重要な目的の一つでした。

翌日には現在も稼働中のタンゲラン工場を視察されました。タンゲラン工場は、これまでKMTの生産を50年もの間支え

てきた重要な拠点であり、現場のオペレーションや設備の状況、今後の課題について意見交換が行われました。

移転期という過渡期においても、生産・品質を維持する現場の努力を直接確認していただく絶好の機会となりました。

また、長年にわたりKMTの事業を支えてきたパートナー企業であるARGO GROUPを表敬訪問し、工場移転作業に対する継続的なサポートを依頼していただきました。移転という大きな変化の中で、現地パートナーとの連携がいかに重要であるかを再確認する場となりました。

今回の西垣社長のインドネシア訪問は、工場移転という重要な節目において、現地の状況を直接確認いただき、関係者との認識を共有する貴重な機会となりました。

サラティガ新工場の本格稼働に向け、現地・日本が一体となってプロジェクトを前進させていくことの重要性をあらためて感じさせる訪問となりました。

（蔵田 記）